

注意 字数が指定されている設問については、「、」や「。」も一ます使いなさい。

1 次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。

「それで君は、わざわざこれを届けに来てくれたってわけだ。」若い警察官は春の陽差しが揺らぐポリスポックスの入り口に立つ少年を見た。少年はこくりとうなずき、大きな目を見開いて警察官を見返した。少女のように深く黒い眸にじっと見つめられると、警察官は少し胸がどぎまぎした。警察官は机の上に置いた少年の届け物を手に取り、今しがた少年の言った言葉を思い返した。「これを拾ったので届けに来ました。こんな綺麗な人形だから、なくした人は探していると思うんだ。」

確かに少年が言うように、その人形は美しい青色をしたガラスでできていた。透き通った空のようなガラス細工はどこか外国製のものかもしれないが、帽子の一部をなくした人形を持ち主が捨てたと考える方が当たり前に思えた。さてどうしたものか……警察官はもう一度少年を見直した。

少年野球の帰りだろうか、真新しいユニホームの胸元で大切そうにグローブを両手で抱いた少年をガラス越しに拡散するプリズムが抱擁している。真剣なまなざしで何かを待っている。そのまなざしを見て、警察官はいい加減に対応していたかもしれない自分に気付いて、背筋を伸ばして訊いた。

「それで、どこでこの人形を拾ったのかな？」「グラウンドの草の中だよ。」「グラウンド？ あつ、そうだね。野球のグラウンドだよ。草むらの中で見つけたんだ。」「センターのずっと後ろの……、タンポポが咲いてるそばにあつたんだ。」「そうか、じゃこの人形はタンポポのそばで昼寝をしていたのかな。」少年が初めて笑った。その微笑は、郊外のこの新興住宅街について先日吹いた春一番が連れてきた新しい季節をすべて集めたようにまぶしいものだった。

警察官は目をしばたたかせて、机の抽出しから拾得物届け出のファイルを取り出した。「じゃこの人形を君が届けてくれたことを忘れないように書いておこう。この人形の持ち主が現れた時、すぐわかるようにね。君の名前を教えてください。」「ウミノトオル。海に野原の野だよ。」「もし持ち主が現れたら、君のことを話すからね。」「お礼なんかいいんだ。」少年はそう言って「目散に駆け出していた。警察官は立ち上がって少年の後姿を追った。春の陽差しの中に跳ねるように遠ざかる少年がまたまぶしく感じられた。

あのポリスポックスに一人の少女がやってきた。日番だった若い

2 次の文章は、日本最古の物語と言われる『竹取物語』について述べられたものである。これを読んで、①～④に答えなさい。

『竹取物語』は超現実的な世界を描いている。しかし、現実性もまた物語ジャンル成立に必須の要件であった。『竹取物語』の現実性を見るには、例えば、同じく竹取翁の伝承を採録したと思われる『今昔物語集』の「竹取の翁、見付けし女の児を養へる語」と比べてみるとよい。この説話は、末尾の

その女^①ひに^②いかなる者と知ることなし。また翁の子になれることもいかなることありけむ。すべて心得ぬことなりとなむ世の人思ひける。かかる希有のことなれば、かく語り伝へたるや。というところに主眼がある。「希有のこと」を希有と認めて事筋道だけを語ろうとするのである。この不思議な「女」には人間の感情がない。まことに「いかなる者と知ることなし」である。

これに対して物語では、登場人物の「心」を生かそうと努めている。骨組みは『今昔物語集』の話とほぼ同じであり、かぐや姫もまた不思議な「女」には変わりない。しかし、物語の「変化の人」は、地上にある限り人間の心情を持たされているのである。翁夫妻との別れを嘆いては、

さきさきも申さむと思ひしかども、かならず心惑はしたまはむものぞと思ひて、今まで過ごしはべりつるなり。

と、老父母の心情を汲み、かの国の父母のことも覚えず、まことに、かく久しく遊びきて、恨らひたてまつれり。いみじからむ心地もせず、悲しくのみある。と言つて、「もろともにいみじう泣く」のである。まことに、人の子とし

警察官は青いワンピースを着た少女を見て、何でしようかと訊いた。少女は浮かぬ表情をして言った。「落とし物を探しているんですが、届けた人はいませんか？」「落とし物ですか。物は何でしょうか。」「人形です。これくらいの、青いガラスの人形なんです。」少女の白く細い指先がしめす人形の大きさを、警察官は、それはひよっとしてピエロの人形ですか、と訊き返した。少女が目を見開いた。その表情を見ても、まだ半信半疑だった警察官は奥の棚から、あの人形がしまつてあるビニール袋を取り出し、それをゆつくりと少女の前に差し出した。あつ、その人形です、と少女が声を上げ、目を輝かせて人形に触れているのを見て、警察官は胸の中で呟いた。——こんなことがあるんだ……。人形に煩ずりをしてる少女の眸に、あのユニホームを着た少年の黒い大きな眸が重なった。うそみたいだな……。警察官は拾得物として本署へ持って行けば笑われると思つていた人形の持ち主が現れたことに少し胸がときめいた。(出典 伊集院静「ぼくのボールが君に届けば」)

- ① —の部分⑦、④、⑤の漢字の読みを書きなさい。
- ② —の部分③、④の「ように」のうちから、たとえ(比況)を表しているものを一つ選んで、その記号を書きなさい。
- ③ 「一目散に」の意味として最も適当なのは、(1)～(4)のうちではどれですか。
- (1) わき目もふらないで (2) ちょっと目を合わせて
- (3) あたりを見回して (4) じっと見つめた後で
- ④ 「警察官」が「少年」に誠実に応対しようと思つたことがわかる一文を文章中から抜き出し、そのはじめの五字を書きなさい。
- ⑤ 「目を見開いた」、「目を輝かせて」のそれぞれの表現からうかがえる「少女」の気持ちを表したことはの組み合わせとして最も適当なのは、(1)～(4)のうちではどれですか。
- (1) ①期待 ②焦り (2) ③満足 ④感謝
- (3) ⑤驚き ⑥歓喜 (4) ⑦心配 ⑧安心
- ⑥ 「警察官」が「うそみたい」と思つたのは、彼がこの人形についてどのようなことを予想していたからか。その内容を、「警察官」の考えがよくわかるよう、これより前の文章中のことばを使って五十文字以内で書きなさい。

てのかぐや姫がいる。かぐや姫は「ものあはれ」を知る人間として描かれているのである。ここに、説話とはまったく性格を異にする物語の描き方を見ることが出来る。(出典 鈴木一雄「物語文学を歩く」)

(注) ジャンル——ここでは「物語」「説話」「随筆」など文学作品の種類。説話——神話・伝説などの総称。なお、『今昔物語集』は日本最大の説話集である。変化の人——ここでは、「かぐや姫」のこと。

- ① 「つひに」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。
- ② 「すべて心得ぬことなり」の現代語訳として最も適当なのは、(1)～(4)のうちではどれですか。
- (1) 何もかも納得のいくことである
- (2) 何もかもわけのわからないことである
- (3) 何もかも予想していた通りのことである
- (4) 何もかもおもしろみのないことである

③ 「老父母の心情を汲み」とあるが、「かぐや姫」は「老父母の心情」をどのように推しはかっているか。「かぐや姫」が推しはかっている内容を具体的に示されている部分を、『竹取物語』の原文中から十五字で抜き出して書きなさい。

④ 筆者は、『竹取物語』のどのような点が「説話」と異なると考えているか。次の文がそれを説明した文になるよう、[]に入れるのに適当なことを、文章中のことばを使って十五字以内で書きなさい。「かぐや姫」を[]により、現実性を確保している点。

3

次の文章I・IIはいずれも「日本的な表現」に関するもので、Iは中村明「表現のよろこび」の一節、IIは中学校三年生の国語の授業でIを読んだ後にグループに分かれて行なった討論の一部である。これらを読んで、①～⑨に答えなさい。

伝統的な察し合いの文化の中で、日本人はとかく言い切らない言方方を良しとし、控えめな表現を大事にする言語観を捨てきれないでいる。そこに源を発する日本的な表現の様々な特徴のうち、ここでは主要な三点を指摘して解説する。

一つは非限定性、明確に限定せずに幅を設け、含みを持たせることこそたしなみのある表現だとする態度である。そのため、日本人の言語行動では、ものをはっきり言いつづけることを警戒する傾向があった。あまりにもはっきりと限定する表現は解釈の幅がなく、相手の「ハンド」を仰ぐという姿勢に欠け、強く響く。そこで、あたりを和らげるために表現面に「ぼかし」を入れる。客が「これを見せてもらえますか。」とショーケースの中の時計を指さすと、店員はたいいてい「こちらでございませうか。」と手のひらを見せて応じる。客が人差し指で一点をさしながらある特定の一個を「これ」と限定して指示するのに対し、店員は「こちら」という方向を口にしながら、手のひらの先でその一個を中心とした一帯を漠然とさす。客が不安にならないのは、ぼかしの文化を共有しているからだ。限定をゆるめる表現態度がコミュニケーションに含みを持たせ、奥ゆかしさが丁寧に感じさせるのである。

次は間接性、露骨に言いつづけないようにする配慮である。いきなり話を切り出すのは不作法だと日本人ならだれしも思う。唐突な感じを避け、できるだけ自然に運びたいのだ。

いつか雨の日に電車に乗ったら、「あいにくの雨のため、脚を組んだり投げ出したりなさいませぬよう、よろしくご協力願います。」という車掌の声が聞こえてきた。「なさらないでください」と直接禁止する表現形式にせずに「願います」と自分自身の行為にとらえ直した点、また、「なさいませぬよう」を「ご注意」とまつすぐ受けずに、ワンクッションおいて「ご協力」と受けたのも、目立たないながら間接表現だと言っている。

次に省略性を掲げておく。皆まで言うなどという美意識にササえられ、どこかに空隙をつくっておく表現である。一文の中のわかりきった要素を思いきり省き、文と文とのつながりにゆとりをおくなど、伝達に空白部を設けたのである。「どうぞお茶をお飲みください。」という勧め方は押し付けがましい。「お茶をどうぞ。」ぐらいで止め、相手にげたを預ける方が日本語らしい。

雨の日のアナウンスでも、「雨のため」と「脚を組んだり投げ出したり」とのつながりには論理のすきまがある。雨降りの日は靴が汚れていることが多いので、脚を組んだり投げ出したりすると、他の乗客の衣服がそれに接触し汚れが付着する危険があり、そういう結果をもたらす確率と汚損の程度は晴れた日の比ではない、という関係になるだろう。日本人は「脚を組んだり投げ出したり」する主体や「願います」の主語をも省いて、できるだけすっきりと表現したいのである。

一つの小さなアナウンスの例を織り込みながら、日本人の表現上の美意識を非限定性・間接性・省略性という三点に絞って考えてみた。むろん、その性格は強ければ強いほどいいというものではない。非限定に徹すると意味がまともなくなる。間接的すぎると関係がたどれない。省略も度をこせば通じなくなる。その限界は相手や状況によってみな違う。これ以上ではくどくなり、これ以下では伝わりにくい、言葉と心とのそういうバランスの極致を、日本人は表現の理想としてきたように思う。

II

(司会) それでは、この文章を踏まえて、「日本的な表現」についてのお話を始めます。最初に、筆者の言う「日本的な表現」の特徴について、経験があれば言ってください。

(春子) デパートで桃を五つ買うときに、私の母は「桃を五つほどお願いします。」と言っていました。わざわざ「ほど」を付ける言い方は、「ぼかし」に当たるので、非限定性の表れの一例なのかな、と思いました。

(秋子) 小学校の時の担任の先生が手紙をくれたとき、冒頭に書かれたとても丁寧な時候のあいさつに感心しました。同窓

会への出席を伝える手紙だったので、すぐに用件に入らない書き方は、間接性に関係があるのではないのでしょうか。ぼくたちは、携帯電話のことを「ケータイ」と言ったり、コンビニエンスストアのことを「コンビニ」と言ったりします。これは、筆者の言う省略性に関係していると思います。

(司会) それぞれ思い当たる経験があるようですね。では続いて、こうした「日本的な表現」を使うことについて皆さんはどう考えますか。意見を自由に言ってください。

(次郎) ぼくは、友だちに貸していた本を返してほしいときに「あの本は面白かった？」とそれとなく気付けてもらおうとしたのですが、「うん。」の一言で終わってしまいました。必ずしも控えめな表現が良いとは限らないと思います。

(秋子) そうでしょうか。私は友だちと服を買いに行ったとき、つい「あなたにその色は似合わないわ。」と言ってしまったことで気まずい思いをしました。「こっちの色の方がもつといいかもね。」と言えば良かったと思います。表現の仕方次第で印象はだいぶ変わるものだと思います。

(春子) 先ほど話した場面で、私は、どうして「五つほど」と言うのかと思いました。私だったら、「五つください。」と言います。「五つほど」では、お店の人は、何個渡せばよいかわからなくて心配だと思っからです。

(次郎) 筆者は「②」と言っています。そういう関係にな人にとつては不安を感じるかもしれないわけですね。

(太郎) これからは、今まで以上に外国の人たちと接する機会が増えるだろうし、いろいろな考え方が出てくるだろうと思います。不安を感じる人も多くなるかもしれません。

(司会) なるほど。筆者の言う「日本的な表現」には一長一短があるようですね。さて、これからの時代を生きる私たちは、こうした表現を今後使っていくべきなのでしょうか。引き続き考えてみましょう。

① —の部分⑦、⑧を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「自分自身」とあるが、ここではだれのことを指しているか。その人物として最も適当なのは、(1)～(4)のうちではどれですか。

- (1) 店の客 (2) 店員 (3) 乗客 (4) 車掌

③ 雨の日のアナウンスの例について、「論理のすきま」を補うとどうなるか。それを説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、文章中のことばを使って五十文字以内で書きなさい。

あいにくの雨のため、□□ので、脚を組んだり投げ出したりしないでほしい、ということ。

④ 「くれた」を、尊敬語を使った表現に書き改めなさい。

⑤ 「春子」「秋子」「太郎」のうち、それぞれの最初の発言の中で、Iの筆者の言う「日本的な表現」の特徴の例として適当でないと考えられる内容を述べているのはどれですか。

⑥ □□に入れるのに最も適当な三十字以内の一文を、Iの文章中から抜き出し、そのはじめの五字を書きなさい。

⑦ 「春子」「秋子」「太郎」「次郎」のうち、Iの筆者の言う「日本的な表現」を最も肯定的にとらえた発言をしているのはどれですか。

⑧ IIの討論を進めていく上で「司会」が留意していると考えられることとして最も適当なのは、(1)～(4)のうちではどれですか。

- (1) 早く進行するために、反対意見を取り上げないこと。
 (2) 感情的なことばを用いて、テーマを強調すること。
 (3) 発言しやすくするために、論点を明確にすること。
 (4) テーマを絞らず、様々な話題を取り上げること。

⑨ IIの討論で話題となった、筆者の言う「日本的な表現」を使っていくべきかどうかについて、あなた自身はどのように考えるか。あなたの意見が的確に伝わるよう、その根拠を含めて、百五十字以内で書きなさい。

受番	検号
(算用数字)	
志願校	

解答用紙

※

1

①
⑦

き通った

ねるように

③

⑥

ということ予想していたから。

2

①

③

④

ことにより、現実性を確保している点。

3

①
⑦

えられ

②

③

あいにくの雨のため、

ので、脚を組んだり

投げ出したりしないでほしい、ということ。

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨